

北海道内のワカサギ釣り遊漁券発券枚数の推移

ワカサギは、ヤマトシジミに次ぐ漁獲量を誇り、北海道の内水面漁業において重要な魚種です。2009～2012年には250～350トンほどが漁獲されていましたが、2013年以降は台風の影響を受けた2016年を除き、200トン前後で推移しています（図1）。道内の遊漁券発券枚数の65～80%はワカサギ釣りが占めており、遊漁対象魚種として広く道民に親しまれていることがうかがえます。なお、北海道内でのワカサギ釣りの多くは湖面に張った氷に穴を開けて行われ、多くの釣り場では釣り竿や餌等の道具の貸し出し、穴開け作業の他、テントや仮設の小屋、トイレなどが備わっていることから、初心者や老若男女を問わずに行うことができます。

道内で2020年のワカサギ遊漁券の発券枚数の多い場所は網走湖、しのつ湖、大沼、朱鞠内湖、阿寒湖、ポロト湖、ホロカヤントーの順でした（図2、3）。釣り場として人気の高い場所は必ずしも漁獲量の多い湖とは限りません。今回は、この7ヶ所において発券枚数の推移とその特徴などを紹介します。

網走湖は道内で最もワカサギの漁獲量が多い湖であるとともに遊漁券発券枚数も最も多い湖です（図3）。またワカサギの原産地であり、初夏に湖から降海し成長して再び湖に遡上した魚を釣るため魚体が大きいことで知られています。地元網走市の他に北見市など近隣住民の冬季レジャーの一つとして親しまれ、遊漁券発券枚数も増加傾向にあります（図4①）。

しのつ湖は人口196万人の札幌市から30kmほどの距離にあり集客の面からは有利です。また、温泉施設が隣接しており、両者をセットにした券も販売されていることから、近年人気が出て遊漁券発券枚数が増加傾向にあります（図4②）。

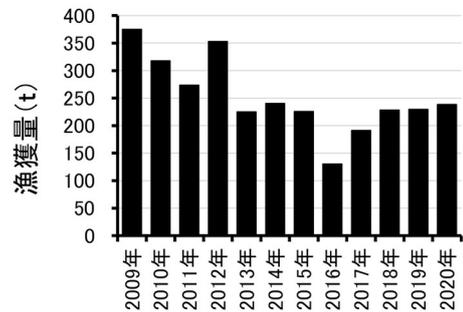


図1 北海道内のワカサギ漁獲量の推移

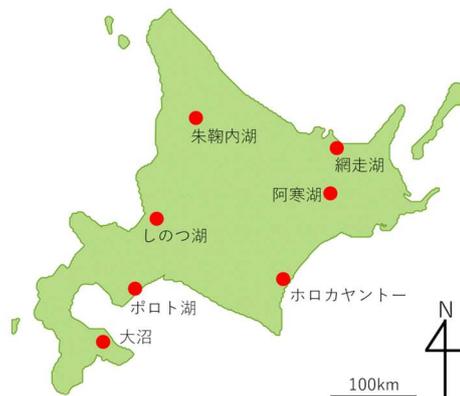


図2 今回取り上げた7ヶ所の釣り場の位置図

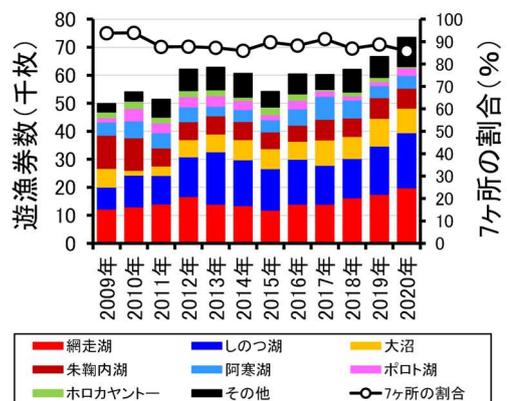


図3 遊漁券発券枚数と調査を行った7ヶ所の占める割合の推移

大沼は北海道南部に位置し、人口が道内では第3位の函館市から30kmほどの所にあり、毎年15~20トンほどが漁獲されています。2012年に釣り場を拡大、整備してからは遊漁券の発券枚数が増加傾向にあります(図4③)。

朱鞠内湖は北海道北部に位置し、人口が北海道で2番目に多い旭川市からは80km以上離れており、集客の面からは好適な場所であるとは言えません。一方、国内では最大サイズになるイトウの釣り場として大変有名です。付近は道内でも有数の豪雪地帯でワカサギを釣るのは容易ではありません。毎年数トンが漁獲されているものの、釣れる魚のサイズは小さいが非常に多くの尾数が釣れることから、熱心なリピーターが多くいるといわれています。2011年に遊漁券発券枚数が減少した要因は不明ですが、その後は安定的に推移しています(図4④)。

阿寒湖は北海道東部に位置し、国の特別天然記念物に指定されているマリモの生息地としても有名です。また、湖畔は温泉街で多くの観光客が訪れます。ワカサギ釣りを楽しむのは外国人客が多いといわれ、遊漁券発券枚数は2017年以降減少していましたが、2020年には外国人客にかわって国内からの来場者数が増加したものとされます(図4⑤)。

ポロト湖は北海道中央部の苫小牧市からは20kmほど、室蘭市からは50kmほどのところに位置します。遊漁券発券枚数は2011年以降減少傾向だったものが、2020年には増加に転じました。これは湖畔に民族共生象徴空間ウポポイが整備され、それに伴い来場者が増加したものとされます(図4⑥)。

ホロカヤントーは北海道東部の帯広市から約65kmのところにあります。熱心なリピーターはいますが、アクセスが悪く天候が来場者数に影響を与えると思われ(図4⑦)。

ワカサギ釣りは、家族単位で楽しめる感染症蔓延防止に配慮した屋外レジャーと言えます。2019年以降、このような点が道民に再評価され、遊漁券発券枚数の増加につながったのかもしれませんが。水産試験場としては、今後とも資源管理や人工増殖について事業実施者にアドバイスし、釣果の安定化を図り、新型コロナウイルス感染症収束後は、インバウンドを含めた道外旅行者の回復により、内水面漁業の振興を図っていきたく考えています。

(2022年9月2日 北海道立総合研究機構 さけます・内水面水産試験場 内水面資源部 真野修一)

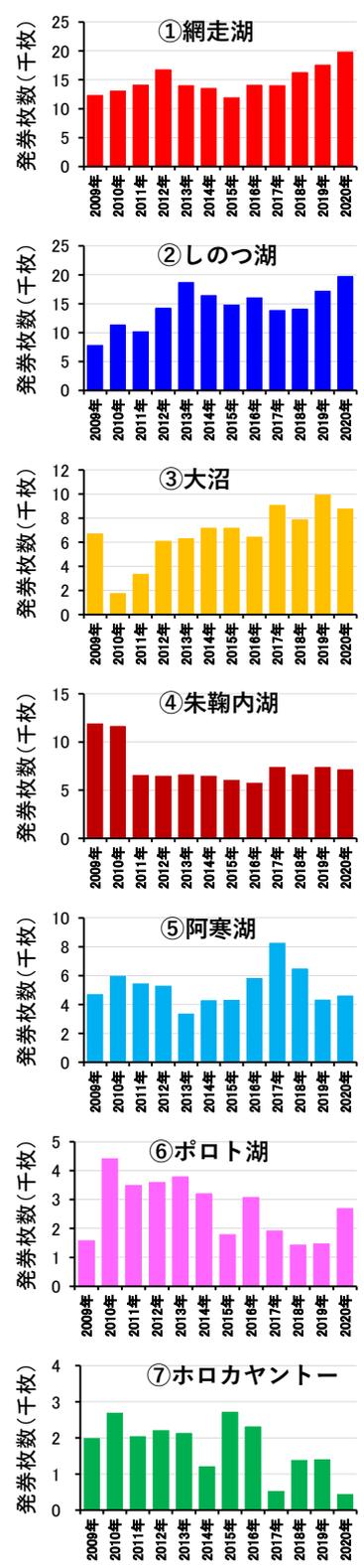


図4 調査地点ごとの遊漁券発券枚数の推移